佳　作

丸森小学校　５年　齋藤　颯太

表題「キセキのスパゲッティーを読んで」

書籍名『キセキのスパゲッティー』

「他の人とちがうのはいやだ。」ぼくは、この本に出会う前はそう思っていた。

ぼくは、みんなとちがうのはいやだ。変わりものだと思われるのがいやだからだ。

主人公のユジュンは、みんなとちがうことをすると不安に感じていました。

でも、ユジュンは夏フェスでスパゲッティーを出すことになり、みんなとちがうスパゲッティーをみとめられたユジュンは、みんなとちがってもいいということに気づきました。

ぼくも、ユジュンと同じ経験があります。ぼくは、みんなと同じ遊びをしなければならないと思っていた。ぼくは、みんなと同じ考えでなければいけないと思っていた。なぜなら、「間ちがっていたらどうしよう。」「自分だけ変なのかな。」と思うことがあった。フツーにそまることは、友達と仲良くするためには必要なことだと思っていた。けれど、この物語を読んで、みんなと同じじゃなくてもいいと思った。みんなと同じであることがフツーであると思ったが、人によってフツーはちがうのではないかと考えた。

これからも、みんなとはちがうことはたくさんあると思う。ぼくは、人とちがうところも受け入れていきたい。ぼくは、ぼくを大切にしていきたいと思う。